

サマーワークショップ 2021 ご報告

天沼小学校 学校運営協議会 (CS)



天沼小学校学校運営協議会 (CS) 主催のサマーワークショップ (教職員・保護者・地域関係者による熟議) を8月30日(月)に参加者56名にて、オンラインで実施しました。

今年の内容は、年度初めにお配りした「天沼小学校がめざす教育」に、CS から保護者・地域・学校が一体となって取り組むテーマとしてご提示した、3つの目標についての理解を深めること、また各々の立場でどのようなことを行えばいいのかを考え合うことでした。

まず CS の高橋会長より、各目標提示の理由を基調講話でお示しし、その後目標ごとにグループワークで話し合い、自分たちにできることを考えていきました。その内容を以下にご報告させていただきます。

低学年の目標

しっかりあいさつしよう！

あいさつは日常生活の基本です。家族相互での声かけをしましょう。

- 例) ・へんじ
- ・あいさつ
 - ・ありがとう
 - ・ごめんなさい

中学年の目標

相手のことを思いやろう！

自分が言われて、されて、嫌なことは、相手にもしない。相手が喜ぶことは何だろう？と考えられる力を持てるように、声かけしましょう。

高学年の目標

社会のできことについて話し合おう！

社会で起きているできごとを家庭で話し合う機会を持ちましょう。学力調査の結果を見ても、この機会のある家庭の子どもたちの学力が向上していることが示されています。

社会のことに目を向けられるよう、コミュニケーションをとっていきましょう。

■しっかりあいさつしよう！

なぜ、あいさつすることが大切なのでしょう？

私は以前、元上野動物園園長の中川志郎氏の講演を聞き、その理由に感銘を受けたので、ここでご紹介します。

中川氏がまだ若い頃、ゴリラの飼育担当になりました。そして、初めてエサをやるためにゴリラのエリアに入りました。すると、ゴリラはドラミング(胸をたたくなど)をして威嚇してきたそうです。中川氏はびっくりして外に出て、先輩の飼育員にそのことを尋ねました。



すると先輩は、「あいさつもしないで中に入ったからだ。大きな声であいさつしてから中に入らないと危険だぞ!」と言ったそうです。

そこで次の時に、「おはよう!担当の中川だよ!エサをあげにきたから中に入るよ!」と言って中に入ったところ、ゴリラたちは威嚇せず、中川氏の顔を見た後、いつも通りの態度に戻ったそうです。

つまり、あいさつという行為は、相手の生活圏に入るよ、でも攻撃することはないよという意思表示であるということなのです。

人間も集団社会で生きています。あいさつすることで相手の存在を認め、尊重し、親しく交流したいという意思を伝える、つまり人間関係を良好にするうえで大変に重要な、意味あることなのです。

もし、あいさつしても無視されたら、不愉快になりますが、それはあいさつ本来の意味を本能的に理解しているからです。これは心理学的にも認められており、人間は周囲から認められたいという欲求を持っていて、それが満たされないと安心できないのです。ですから、あいさつはとても大きな意味があるのだということを忘れてはならないのです。

【しっかりあいさつをする子どもを育てるために、何をすればいいのか、グループでの話し合い】



■相手のことを思いやろう!

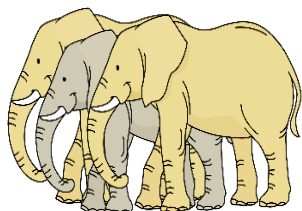
なぜ、思いやりは大切なのでしょうか?

思いやりとは、相手のことを思い、察すること、気遣ったり同情したりすることです。

中川氏は、ゾウから、そのことを学んだのだそうです。あるゾウが病気になり、ふらふらしながらも壁によりかかるなどして何とか立っていたそうです。

弱ったゾウは、一度横になると起き上がることができず、二度と立つことができなくなるのだそうです。すると、血縁関係もない二頭のゾウが、病気のゾウに近寄り、倒れないように両側から支えるように寄り添ったのです。しかも、1か月もの間、支え続けたそうです。おかげで、病気のゾウは徐々に回復し、元気を取り戻しました。

集団で生活する動物は、互いに相手のことを思いやり、助け合う行動をとるということを本能的に備えているといえます。



人間はどうでしょうか? もしかすると、そうした大切な心を忘れかけてはいないでしょうか。

中川氏も、シルバーシートに高齢の方がいらしても、座り続ける若者を見て、ふと心配になったとおっしゃっていました。

人間が本来持っている大切な心、思いやりの心を、みんなが取り戻すような教育の充実が必要なのではないでしょうか。

ちなみに、「思いやり」に関しては、外国と日本との文化比較研究から見ると、少し違いがあります。

アメリカ、韓国、日本の未就学児のいる保護者に「どんな子どもに育てほしいか」(2013年調べ)と尋ねたところ、アメリカの1位は「責任感」(49.8%)、韓国の1位は「礼儀正しさ」で(60.5%)、日本の1位は「他人のことを思いやる心」(61.9%)だったそうです。

ちなみに、アメリカの2位は正義感、次にきまりを守る、そして4位が思いやりの心を持つでした。つ

まり、独立した個人を根底に捉えた人間観が優先にあるということが分かります。

韓国で思いやりの心が出てくるのは第11位で、それよりも序列を大事にするなどのほうが高く、目上の人たちを敬う文化だということが分かります。

西欧諸国は、狩猟文化が根底にあるのでしょうか、一人一人が生き残るためには自分の身は自分が守る、そのうえで周りとうどう関わるかを考える文化だと言われています。

日本は農耕文化の人間観を持っています。集団の中で自分がどのような役割を持っているのかを考えて、その中でどのように主体的に関わろうかを考えながら、周りのこと見て、察して、自分を考えるという人間観があります。協調性を大切にしてきた文化といえるでしょう。

とはいえ、外国の人たちとの関わりも多くなってきている昨今では、日本人は、自分の主張を行わず、何を考えているのか分からないと言われることも少なからずあるようです。

しかしながら、文化的な背景がある思いやる心は、日本の中では小さい子どものときからはぐくむことで、人間関係を良好にすることは間違いのないことであり、社会的関係性の中で自己が形成されるためには重要なこととなるのです。

また、思いやりの心は、人との関わりの中で育まれるものです。教え込もうとしても納得できるものではありません。子どもは、学校、家庭、地域におけるさまざまな人との関わりの中で、相手の立場を理解したり、気持ちを考えたりします。体験を通して、この心を身に付けていく必要があるのです。

【思いやりの心を育むために、何をすればいいのか、グループでの話し合い】

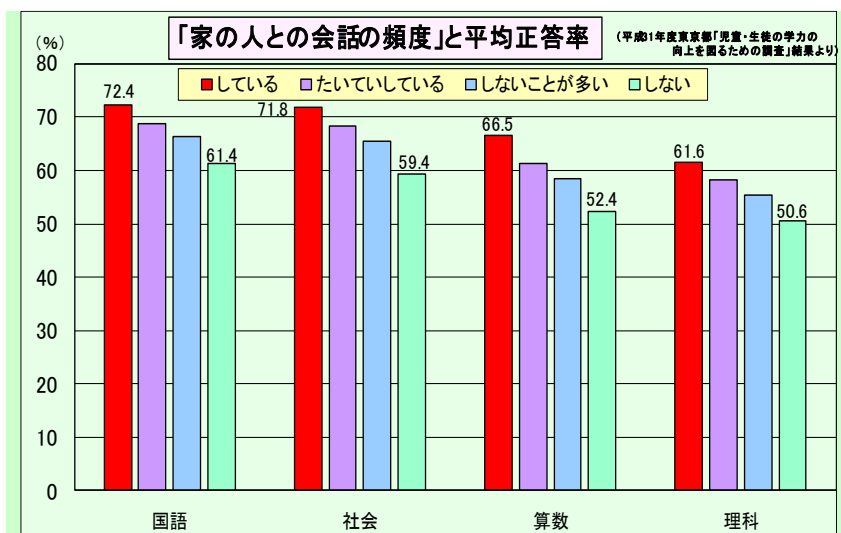


■社会のできごとについて話し合おう!

なぜ、社会のできごとを家庭で話し合うことが大切なのでしょうか?

実は、家庭での会話が多いほど、学力が高くなるという傾向があるのです。

令和元年度東京都学力調査の、家の人との会話の頻度と平均正答率についての調査結果です。



あきらかに、会話をよくしている家庭の子どもたちの方が、正答率が高いということで、相関関係があるとされています。

なぜこのような結果になっているかという、広い視野をもって社会を見て、考える力が求められているということに関係しています。

最近の中学、高校入試の問題には、生活と結び付けて、理解したことや考えたことを自分の言葉で記述するという問題が増えています。

例えば、地球環境を維持するためのSDG'sの目標である、「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」「気候変動に具体的な対策を」という3つの目標を参考にして、あなたが実践していることを50文字以内で答えなさいという問題。

「ジェンダー平等を実現しよう」という目標から考えたときに、このピクトグラムが問題視されるのはどのようなことなのかを考えて説明しなさい。という出題がされているのです。



もちろん、入試が全てではないのですが、社会への興味関心をもって、自由記述をするという傾

向に移っているということは確かです。

これは、大学入試が大きく変わってきていることに連動して、高校、中学もそのようになっているということが背景にあります。

ご存知かと思いますが、新学習指導要領では、社会や世界との関わりを重視することが求められています。

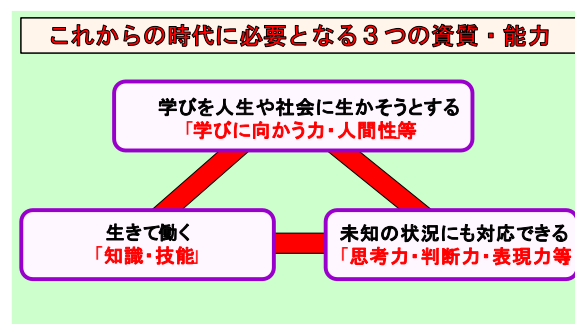
これからの時代に求められる3つの資質・能力として、①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力・人間性等に分類されています。

今までは、知識・技能に偏った重点が置かれていたこともありましたが、これからの社会を生き抜くためには、知識・技能を得た先に、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていかなくてはならないと示さ

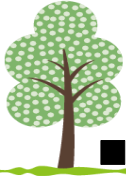
れるようになっていきます。

天沼小の先生方も、毎時の学習のなかで、この学習にどのような意味があり、将来どのように役立つのだよというようなことを子どもたちに明らかにして、取組をしているはずで

す。家庭でも、学校で勉強したことを話したり、説明したりすることで、学びをより確かに実感することがあれば良いと思いますし、テレビなどを一緒に観ているときに、その内容を話して共有することも良いのではないかと考えます。



【家庭での会話を増やすために、何をすればいいのか、グループでの話し合いを行い、その後発表】



各グループで話し合った主な内容を紹介します。
参考にしていただき、子どもたちを共に育てていきましょう！

■しっかりあいさつしよう! について

学校

- ・なぜ、あいさつは大切なのかを考えさせる機会を設けたい。
- ・あいさつは大切だと指導はしているが、押し付けにならないよう、言い方に気をつけて話をしたい。
- ・あいさつができたということを褒めるということも大事。
- ・子どもたちにとって自然と習慣になっていくように、教員からあいさつする姿を見せるようにする。

保護者

- ・海外の人はあいさつの量が多い。あいさつも握手も、「敵ではない」ということを示そうとしているのだと思った。
- ・社会人は仕事を円滑に進めるうえであいさつは欠かせない。とても大事。
- ・親は子どもの鏡。手本となることが大事。
- ・天沼では、シルバーさんや地域の方々があいさつをしてくださることが多いが、あいさつが返ってこないという話も聞いている。家庭でも、あいさつを返そうと話してみようようにしたい。
- ・あいさつはその日1日を知るバロメーター。体調を知る手掛かりにもなるので、大切にしたい。

地域

- ・子どもは大人の姿を見ている。躊躇せず、こちらから挨拶をしていくようにしよう！



■相手のことを思いやろう! について

学校

- ・言葉などで教えられるものではなく、子ども同士の関わりのなかで身につけていくもの。
- ・子どもたちに話をする際や指示をするときに、前向きな言葉を意識して声をかける。否定から入らず、相手の話を受け入れてから、こちらの意見を言うように心がける。
- ・地域・異学年・異年齢との交流は大事。体験や遊び等を通して、優しい心を育ていける。

保護者

- ・一人で仕事をし、周りに関わろうとしない社会人もいるが、相手のことを思いながら行うことが大事。
- ・幼いときから、感謝の気持ちを伝える。「ありがとう」の経験の積み重ねが大事。
- ・家庭ではついつい、きつい言い方をしてしまうこともあるが、相手の気持ちを想像することをより意識して声掛けしたい。
- ・親子で本を読んだりしながら、登場人物の心情などについて話をして、少しずつ感覚を育てたい。

地域

- ・思いやりはとても大切。しかし、外国人と話すなかでは自己主張も必要となる。理解できる年齢になったら、両方を大切にすることも指導する必要があるだろう。



■社会のできごとについて話し合おう! について

学校

- ・学校のできごとでも良いので「おうちの人と話してみてね」という声掛けをしている(複数の教員から同意見あり)。しかし面談で聞いてみると、案外話していない児童が多い印象。家庭での声掛けがあるとうれしい。
- ・会話の題材となるよう、学級・学年だよりに示したりしているの、それを見て会話を進めて欲しい。
- ・校長室だよりも、家庭での会話のきっかけになるよう、各学年のできごとを掲載しているので参考に!

保護者

- ・ニュースを見ながら会話をするのも良い。身近なところから会話が生まれる。
- ・仕事の都合で、あまり子どもと話す時間がないなか、親子で交換日記をしている。書くことは多くなくても、今日あったことを、お互いに伝え合うようにしている。

地域

- ・授業補助に入った時などに声掛けしていきたい。また、放課後活動や土曜日学校でも、家庭での話題となるような、また話したくなるような取組を工夫して進めていきたい。